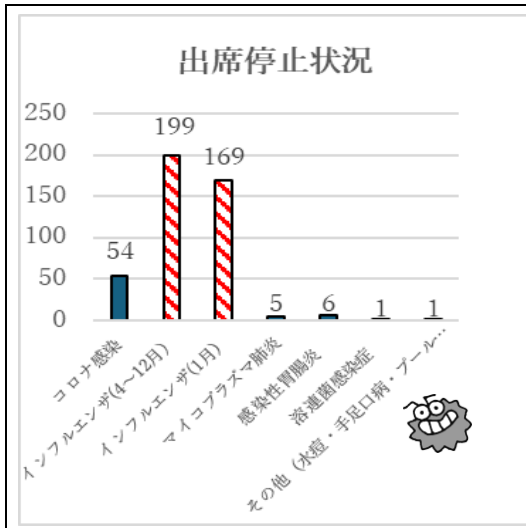


保健だより 2月

令和7年度 第11号
2026.2.18(水) 利府高校保健室

今年度は秋頃から全国的に「インフルエンザ」感染が流行し、本校においても11月は、学級閉鎖(1・2年次)を行う状況になりました。また、年が明けてからもインフルエンザ警報レベル超えとなり、再び学級閉鎖措置となりました。1月下旬から2月にかけては3年次での感染者が多くなっています。学校が休みになると、行動範囲も広がり人との交流も多くなってきます。これまでと同様に感染対策をしっかりと行い、日常生活においても基本的な生活習慣(食事・睡眠等)を心がけて下さい。

今年度の出席停止状況 (R7.4月~R8.1月まで)



宮城県は「インフルエンザ」による感染が多く、4~12月(特に11月に集中)の期間で199名(主にインフルエンザA型)。さらに1月に入ってから169名(主にインフルエンザB型)と、なかには2度罹患した生徒もいました。

感染症による出席停止については、報告書の提出(領収書等の写しを添付)が必要となりますので、まだ報告書を提出していない人は早急に提出をお願いします。なお今後も、日常生活において、石けんでの手洗い・アルコール消毒・換気・マスク着用等を心がけ、感染対策を継続してください。

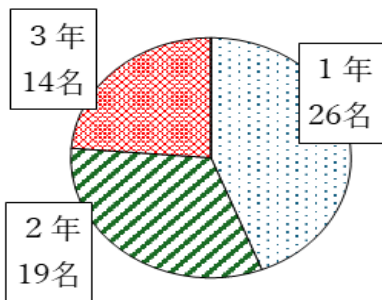
注意・飲料の回し飲みは×



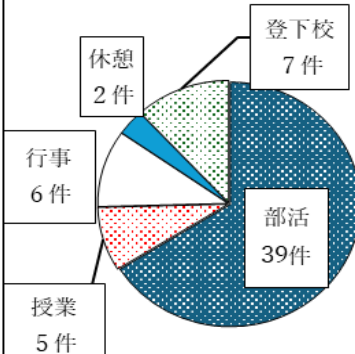
日本スポーツ振興センター(災害共済給付)新規利用状況 (R7.4月~R8.1月まで)



〈年次別発生件数〉



〈時間別発生件数〉



- ・1月までの新規の利用件数は、59件
継続者も含めると約200件の給付。
- ・部活動(運動部)での「ケガ」が6割以上を占めています。授業は殆どが「体育授業」でのケガによるものです。
- ・登下校中は主に自転車通学による事故でした。(自動車事故は含みません。)
- ・疾病別...骨折・靭帯損傷・捻挫で治療、さらに入院や長期療養も多かった。

この制度は、学校管理下(登下校時含む)において災害(負傷、疾病、傷害又は死亡)が発生した時に災害共済給付(医療費、障害見舞金又は死亡給付金)を負担する制度で、本校では全員が加入しています。

災害共済給付を受ける権利は、その給付事由が生じた日から2年間行わないと、時効により請求権がなくなります。ケガをして病院受診したが、まだ申請をしていない人・経過観察中で書類を出し忘れていない人は早めに保健室に連絡をしてください。必要な用紙を渡します。(領収書ではなく、専用の用紙になります。)

注)・年度替わりの休暇中、部活動等での校外(遠征含む)のケガ・受診に対しても適用します。

* 市町村での「医療費助成制度」対応の地域が多くなりましたが、学校管理下での「ケガ」で病院を受診する場合は、先に病院や保健室に連絡してください。(医療費助成の使用が不可となる地域があるので注意!!)

* 登下校中の自動車事故が数件ありましたが、損害賠償適用のため、対象外となっています。

令和7年度『学校保健委員会』が終わりました。【会議報告】

令和8年2月9日(月)午後より、本校において『令和7年度 学校保健委員会』を開催しました。

管理校医:宮田先生(りふの内科クリニック)・眼科校医:鈴木先生(仙塩利府病院)・学校薬剤師:新家先生(リフレ薬局西多賀店) 父母教師会からは松浦会長、北村副会長にご参会いただき、生徒の健康管理、安全衛生管理等についてのご指導、ご助言をいただきました。本校からは、学校長・教頭・事務室長・主幹教諭・年次主任・スポーツ科学科長・健康教育部員・養護教諭の15名が出席しました。

～主な内容について～

sws3z



◎令和7年度 定期健康診断結果

【体位の比較】 ●肥満度(学校保健統計調査方式)「やせ(-20%以下)」;男子2.2%・女子3.2%
「標準(-20%以上～20%未満)」;男子87.0%・女子90.4%「軽度・中高度肥満(20%以上)」;男子10.8%・女子6.3% 宮城県は全国的に身長が低く肥満傾向が多いと言われているが、利府高生は「標準型」の生徒が多いようである。●**新体力テスト結果**より、年次が上がるにつれて体格・スコアも上昇している。運動量の確保が今後の課題。

【視力検査結果】 ●視力A(1.0以上);461名(58.3%) 視力B(0.9～0.7);158名(20.0%)
視力C(0.6～0.3);127名(16.1%) 視力D(0.3未満);45名(5.7%)

⇒受診勧告(C・D)対象者;172名(21.7%) 2月の時点で受診報告があった生徒は70名(40.7%)

【歯科検診結果】 ●未処置歯所有者;124名(15.9%)、歯周疾患(歯垢・歯肉・歯列等)で診察が必要な場合と合わせると⇒受診勧告対象者;246名(31.5%) 2月の時点で受診報告があった生徒81名(32.9%) ※ 今年度は視力・歯科において受診報告をした生徒が例年よりも多くなりました。保護者の皆様にも受診に対する必要性を理解していただきありがとうございます。まだ専門医受診をしていない人は次年度に備えて眼鏡やコンタクトレンズ等調整をお願いします。また、歯科の治療は時間が掛かるため、学校の休みを利用して受診することをお勧めします。

◎令和7年度 保健室利用状況

●利用者数(4～1月);総計1660名(1日平均10名)そのうち約半数は、体調不良等の内科的利用。特に、風邪症状・頭痛の訴えが多く、利用者の3割は自宅休養や病院受診のため早退となっている。5・9・11・1月は利用者が多く、秋以降はインフルエンザ等の感染症が影響し数回にわたり学級閉鎖措置を実施。年次別では1年男子の利用が割りと多かった。外科的利用(11.2%)の多くは、擦り傷・打撲・捻挫。相談においては、学校生活や家庭の問題等がありカウンセリング等に繋いでいる。

◎令和7年度 教育相談

●相談件数(4～12月);のべ人数194…心身の健康・学業進路>友人関係>家庭環境等の件数(重複あり)が多かった。特に家庭環境についての相談は前年度より増加。

～学校医・学校薬剤師・父母教師会のみなさまからのご助言・感想～

【管理校医:宮田先生】 ●感染症が流行してしまうが、インフルエンザに関しては手洗いが一番効果的。換気・マスク着用も有効。流行を抑えるには学級閉鎖もやむを得ない。

【眼科校医:鈴木先生】 ●眼科検診においては、コンタクトレンズ使用者が約3割ほどであったが、合併症はなかった。視力0.7未満(C・D判定)の場合は専門医を受診してほしい。色覚検査については、進路との絡みもあるので、機会があれば検査を勧めたい。

【学校薬剤師:新家先生】 ●学校環境衛生検査の報告…教室内空気検査は、暖房の稼働前と稼働中の2回検査を実施。二酸化炭素を測定することにより、学習環境への影響や感染防止にも繋がっている。冬場はモニターを活用し教室内換気を行ってほしい。

【父母教師会の皆様】 ●受診に関しては、部活動等の絡みでタイミングが難しい場合があるが、自分自身の健康に関わることなのでできるだけ早期に受診をしたい。部活動での大会等があるため、今後も感染症に気を付けながら生活していきたい。